

### 事項三 中国革命派及其他ノ動靜ニ関スル件

二三三 四月二十七日 警視庁ヨリ  
外務省宛

#### 孫文ノ動靜ニ関スル件

(大正五年四月廿八日接受)

乙秘第五二五号 四月廿七日

#### 孫文ノ動靜

- 一、昨廿六日午前七時十分戴天仇来訪
- 一、午前七時廿五分孫文ハ来訪中ノ戴天仇ヲ伴ヒ外出千駄ヶ谷原宿一四八福田雅太郎(陸軍少将)方ヲ訪問同九時戴ト共ニ退出戴ハ同九時四十分退出
- 一、同八時廿分席正銘来訪孫不在ノ為メ即時退出
- 一、同八時三十五分外国郵便一通到着
- 一、同九時廿五分犬塚信太郎来訪同十時退出
- 一、午前九時三十分金佐治来訪同九時四十分退出
- 一、同十時二分菊地良一、林竜雄ノ兩名来訪同十時十分退出
- 一、同十時四十三分金佐治来訪同十時五十五分退出

- 一、同十時四十五分犬塚信太郎来訪同十一時退出
- 一、午後一時五十五分菊地良一、林竜雄ノ兩名来訪、林ハ同二時四十分、菊地ハ同三時廿分退出
- 一、同二時八分張繼来訪同二時三十分退出
- 一、同二時十分金佐治来訪同二時五十五分退出
- 一、同二時十五分歐文電報一通到着
- 一、同二時五十二分戴天仇来訪同三時二十分退出
- 一、同三時心準来訪同三時五十五分退出
- 一、同四時五分米国人「ケエネデー」(ロイテル電報通信社員)来訪同五時五十五分退出
- 一、同四時廿五分玉静一來訪同七時廿分退出
- 一、同四時五十分陸軍參謀本部本庄中佐ヨリ戴天仇ニ至急要件アレバ電話ニ懸ラレタシト千駄ヶ谷原宿一四八福田雅太郎方(陸軍少将)方へ電話アリタル旨福田方ヨリ孫文方へ伝へ来リタルモ戴天仇ハ孫方ニ居合セ居ラサリシヲ以テ孫文福田方ニ行キ電話ヲ聴キ帰宅セリ
- 一、同五時十分周応時来訪同六時十分退出

以上

- 一、六時十二分戴天仇、菊地良一ノ兩名来訪菊地ハ同六時三十分戴ハ同七時二十分退出
- 一、同五時十七分金佐治来訪同六時十八分退出
- 一、同五時四十分外国郵便一通到着
- 一、同五時四十二分頭山満ノ妻及娘来訪同六時廿分退出
- 一、同五時五十分犬塚信太郎来訪同六時十分退出
- 一、同七時発信人「ヒノヤス」ト記シタル内地電報一通到着
- 一、同七時二十分孫文ハ来訪中ノ戴天仇、王静一ノ兩名ヲ伴ヒ人力車ニテ外出同八時十分右兩名ト共ニ帰宅ス(出先キハ不明ナルモ赤坂区青山北町一ノ八某方ナルモノ、如シ)
- 一、同八時三十分參謀本部本庄中佐来訪同八時四十分同中佐ハ来訪中ノ戴天仇ト共ニ退出
- 一、同十時四分戴天仇来訪約五分ニシテ退出
- 一、同八時三十二分前田九二四郎妻来訪同八時四十分退出
- 一、同八時四十分麴町区有楽町写真師大武丈夫来訪約五分ニシテ退出
- 一、同十時四分歐文電報一通到着

二三四 四月二十八日 在上海有吉總領事ヨリ  
石井外務大臣宛(電報)

#### 孫文等ノ上海渡来ハ大局上得策ナラザル件

#### 第八五号

貴電第四三三号ニ関シ孫文並其一派ハ濫リニ擾乱ヲ図ル過激党ト目セラレ最近中外ノ氣受ケ宜シカラサルハ事實ニシテ未タ確タル地盤ヲモ有セサル際彼等ノ渡来ハ大局上得策ナラサルベキノミナラス彼等ノ周囲ニ在ル我浪人ニハ危險ノ分子多ク此等ノ行動ハ折角順潮ニ運ヒ来レル中外ノ關係ヲ傷ツクルガ如キ虞渺ナカラザルヘシト思考セラル御參考迄在支公使へ電報セリ

二三五 五月五日 在上海有吉總領事ヨリ  
石井外務大臣宛(電報)

#### 時局ニ対スル孫文ノ態度ニ関シ報告ノ件

#### 第一〇六号

昨四日孫文ニ面会セル処彼ハ追々唐紹儀等ヲ初メ有力者ノ意見ヲ聴キ事情ヲ明ニシテ後進退ヲ決スヘシト云ヒ居ルモ岑春煊等ニ付テハ依然好感ヲ有セサル口振ニシテ到底他ト

ノ融和覚束ナカルヘク要スルニ其ノ周囲ニ居ル危険性ヲ帯ヒタル陳其美、王統一等腹心ノ徒及同一味ノ日本人等ト輕拳妄動ヲ敢テシテ事端ヲ滋カラシムル位ノ所ナルヘク唐紹儀ノ如キハ初ヨリ孫等ノ熱狂者連ハ時局ノ如何ニ解決セラ、ニ論ナク依然不平等トシテ残存スルノ外ナカルヘシト觀測シ居レリ御参考迄  
公使ヘ電報セリ

二三六 六月八日 在天津松平總領事ヨリ  
石井外務大臣宛(電報)

革命党首領劉揆一二対シ破壊的行動ニ出デザ  
ル様池部ヲシテ警告セシメタル件

第六八号

当地ニ於ケル重ナル革命黨員ハ上海ヘ旅行中ナルカ目下革命党ニ養ハレ居ル三百名ノ軍官学校卒業生等当居留地及仏租界ニ分宿シ居ルニ付六月六日袁死去ノ報確マリタル後池部ヲシテ同党首領劉揆一ヲ訪ハシメ袁世凱ノ死去ハ革命党ノ希望ヲ遂ケタルモノナレバ此上ノ争鬭ハ無用ナリ万一我居留地ヲ根拠トシテ此機ニ乗シ何等破壊的行動ヲ画策スル様ノ事アレバ我租界ノ治安維持上假借ナク取締ルニ付此旨

下江岸停車場ニ露営中ノ安武軍ヲ夜襲シ銃器彈藥ヲ奪ヒ之ヲ窃ニ日仏兩租界ニ運ヒ後日ノ用ニ供セントスルノ計画ヲ為シ居ルコトヲ探知シタルニ依リ直ニ解散ヲ命シ主謀者田桐ニ対シテハ嚴重ニ説諭ヲ加ヘシメ置ケリ今後革命党ノ取締方法ハ多少手加減ヲ變更スル考ナリ御参考迄  
在支公使ヘ電報セリ

二三八 六月十四日 在漢口瀨川總領事ヨリ  
石井外務大臣宛(電報)

孫文及黃興ヨリ田桐、白逾桓等ニ対シ暫時形  
勢觀望スベキ旨返電ノ件

第二三〇号

田桐及ヒ白逾桓等ハ袁ノ死去後執ルヘキ方針ニ付テ孫文及ヒ黃興ニ問合セ中ノ処今後ノ方針ニ付目下協議中ナルヲ以テ暫時形勢ヲ觀望シ何事モ為ス勿レトノ返電到著セシ由ナリ又共和黨員ハ黎ノ大總統就任以來ハ頗ル安心シタルモノノ如ク最早当地ニ於テ何等事ヲ起スノ計画ヲナシ居ル模様ナシ

北京ヘ電報シタリ

一般黨員ニモ傳達シテ常規ヲ逸スルコトナカルヘキ旨警告セシメタル処劉ハ本官ノ好意ヲ謝シタル後袁既ニ死シ黎大總統就任シタルハ之平和的ニ我同志ノ主張ヲ實現シタルモノニテ即チ破壊ノ時期既ニ去リ建設時期ニ至リタルモノナリ此上ニ黎カ民国二年ノ約法ヲ遵守シ政事ノ改革ヲ図レハ我輩ハ彼ヲ助ケ時局ヲ收拾スル筈ニテ夫レニハ一刻モ早ク政府ヲ名実相伴フ責任内閣タラシメ極力北方ノ治安ヲ維持シ一面諸強國ノ援助ヲ得テ財政ノ窮狀ヲ救フコト焦眉ノ急務ナリト思考シ血氣ノ同志ニ対シテモ此方針ヲ訓示シ断シテ党ノ名譽ヲ毀損スル如キ振舞ナキ様嚴重戒飭シタル旨ヲ述ヘ尚ホ万一巡警カ掠奪ヲナスコトアリテモ我黨員ノ雷同スルカ如キコト断シテナシト保障セリ  
北京ヘ暗号ノ儘郵送セリ

(奏天條由 六月九日前〇、五五)

二三七 六月十日 在漢口瀨川總領事ヨリ  
石井外務大臣宛(電報)

田桐、白逾桓等ノ銃器掠奪計画ニ付説諭ノ件

第二二九号

九日午後田桐、白逾桓等ハ日本租界ノ一料理店ニ会合シ目

二三九 六月二十二日 在漢口瀨川總領事ヨリ  
石井外務大臣宛

黎元洪大總統出馬ニ伴フ漢口ニ於ケル革命党

其他ノ動向ニ関シ報告ノ件

政機密第六三号 (大正五年七月一日接受)

大正五年六月二十二日

在漢口

總領事 瀨川 淺之進(印)

外務大臣男爵 石井菊次郎殿

時局ニ関シ報告ノ件(其八)

本件ニ関シ別紙一通及呈出候間御査閱相成度候 敬具

写送付先 在支公使

(別紙)

時局ニ関シ報告ノ件統報(其八)

一、革命党ノ現状

袁大總統ノ死ニヨリテ当面ノ敵ヲ失ヒ一時呆然為ス所ヲ知ラザリシ武漢革命黨員ノ動靜ヲ探查スルニ彼等ノ中ニハ將來尚ホ当地ニ留マリテ地方的活動ヲ試ミント欲スルモノ及ヒ此際北上シテ以テ獵官運動ニ着手セントスルモノ、二別

アリ

将来尚ホ地方的活動ヲ続ケントスルハ是レ田桐、白逾桓等孫黃派ニ属スル各分子ニシテ田桐派ハ袁死亡後孫文ヨリ何等カノ命令ヲ待チツ、アリシガ孫文第二次ノ宣言ハ意外ニ穩健ナリシヲ見テ一驚ヲ吃シ居ルモノ、如ク其後彼ノ行動ハ毫モ見ルベキモノナク単ニ後日南北不調ノ日ニ於テ湖南ニ在ル広西軍ノ湖北ニ侵入スルノ機ヲ期シ自ラ之ト共ニ活動スベキヲ夢ミツ、アルノミ湖南軍湖北侵入ニ関スル語言昨今頻リニ伝ハルハ多ク此方面ヨリ出ツルモノ、如シ而シテ田桐ハ予テ六百乃至八百ト称スル多數ノ黨員ヲ養成シ居ルヲ以テ財政上ノ困窘日ニ加ハリ之レガ救済ノ為メ或ハ人ヲ湖南湯錫銘ノ下ニ或ハ山東居正ノ下ニ遣ハシタルコトアリ兎モ角黨費維持策ニ日夜没頭シ居ルモノト云フモ不可ナシ近頃田桐私カニ上海ニ逃ケンテ企テ黨員ニ察知セラレテ其目的ヲ果スニ至ラサリシトノ噂坊間ニ播マル其真偽判シ難キモ亦以テ財政難ノ一端ヲ窺フニ難カラズ

白逾桓、楊士傑等ハ漢水一帶ニ黃申薊、向海潛ハ大冶方面ニ何レモ軍餉籌備ノ美名ノ下ニ土匪ヲ操縱シジ、アリテ元ヨリ救国ノ政見ヲ有シ居ルモノニ非ラズ

武漢新報等ノ機關紙ヲ利用シテ一方革命思想ノ力吹ニ勤ムルト共ニ一方現任文武官ノ惡評ヲ試ミ居ルニ過キズ而シテ季雨霖、高尚志等一時湖南ニ向ヘシモ其踪跡詳カナラズ日本租界ニ於テ曾テ爆彈破裂事件ヲ惹起シタル黎宗嶽ハ過日遂ニ死亡セリ

然レドモ各派ヲ通シ今尚ホ現任王將軍等ノ武漢官憲ヲ何トカシテ驅逐シ以テ幾多同志ノ亡魂ヲ慰メント欲シ居ルハ屢耳ニスル所ナリト雖モ其意氣頗ル消沈ノ状ニ在リ

二、進歩党湖北支部長馬錫爵ノ時局談概要

進歩党湖北支部長馬錫爵(号宙伯)ハ当館員ニ語リシ時局談概要左ノ如シ

袁世凱死後黎元洪ノ出山ハ南北共ニ歡迎スル所ニシテ其祝電ヲ寄スルモノ頻々枚挙ニ遑アラス殊ニ湖北ニ於テハ軍學商紳ノ各界均シク之ヲ慶祝セリ然レドモコレ元ヨリ黎個人ニ對スル慶祝ノ意ニ外ナラズシテ必スシモ黎元洪ノ手ニヨリテ自ラ時局ヲ收拾シ得ルモノト考ヘ国家ノ将来ヲ樂觀シテ以テ祝意ヲ表シタルモノニハ在ラズ黎其人ハ第一革命當時ノ事情ニ照ラスモ単ニ一好老爺ニシテ胸中恐ラクハ救国ノ大政見ヲ有シ居ラザルベク況ンヤ袁世凱ノ如ク財政兵馬

此際北京ニ赴キ獵官運動ヲ試ミント欲スルモノハ元共和黨員連中ニシテ彼等ハ曾テ黎元洪ノ部下トシテ武昌都督府ノ帷幕ニ勤メシコトアル緣故アリ今回黎總統ノ就任スルヤ逸早く祝電ヲ發シ黎モ亦之ニ覆電スル所アリキ熊繼貞、孫武、呂丹書、吳醒漢、唐犧支等コレ也

孫武ハ本月十六七日頃当地ヲ去リ北京ニ赴キ參謀總長ノ後任運動ニ余念ナカリシモ僅カニ軍事最高顧問ノ一席ヲ得タルノミト伝ヘラレ当地黃、孫其他ノ各派黨員ハ何レモ彼カ袁ノ使命ヲ帶ヒテ武漢黨員懷柔策ニ出テントシタルノ不徳ヲ今更ラノ如ク罵詈訛ツ、アリ

熊繼貞ノ最近語リシ処ニヨレハ黎元洪ニシテ直接熊ニ召電ヲ送ルニ於テハ直チニ北上スベキモ從來ノ通信ハ皆其左右ノ人物ノ手ニヨリテ来リシモノニシテ未ダ物足ラサルノ感アリト彼獵官ノ野心滿々タルハ蓋シ掩フ可ラサルニ似タリ吳醒漢、唐犧支等本月二十一日呂丹書ハ翌二十二日何レモ黎元洪ノ召電ヲ得タリト称シ北京ニ赴ケリ

其他胡祖舜、蘇成章、張漢、劉公、吳榮興、譚振、王元震、蕭展舒等ノ同志ハ其態度極メテ曖昧ニシテコレ亦湖南軍ノ湖北ニ侵入スルヲ待チ居ルニ外ナラズ彼等ハ国民報、

ノ實權ヲ有セザル今日ニ於テハ何事モ自ラ処理シ難キ窮地ニ在ルニ於テハ尚更ノコトナリ袁ノ死ハ一時革命者流ヲシテ氣拔ケセシメ南方ノ要求セシ退位問題ハ自然ニ消滅セリト雖モ南方側ハ尚ホ旧約法ノ復活帝制余孽ノ処罰国会ノ召集内閣ノ改造等ヲ促シ居リ北方ノ態度毫モ具体的ニ見ルベキモノナシ北方ニ於ケル勢力ノ中堅ハ今ヤ事實上段祺瑞一人ノ手ニ在リ而シテ武力解決ノ不可ニシテ何トカ調停ノ途ヲ開カントスルノ意ハ南北共ニ存シ居ルニ因リ過日段祺瑞ハ梁啓超、湯化竜其他ノ南方各首領ノ北上ヲ促シタリ梁ハ既ニ黃群ヲ派シ直チニ段梁ノ提携成ル即チ国会ノ召集ニ先チ一先ツ各省ノ代表ヲ一地ニ集メ時局ヲ討議セントスルノ段案ニ贊同シタルモノ、如ク南方人心之ヲ聞キテ梁ハ既ニ南方ノ意ヲ代表スルニ足ラズト迄思惟スルニ至レリ湯化竜モ亦最近晉京セリ其行動ニ関シ在北京元湖北選出国會議員ヨリノ報導ニヨレハ湯化竜ハ曾テ衆議院議長タリシ關係上国会召集ノ条件ニ就テハ一步モ譲ラサルヘク而シテ湯段ノ意見未タ合致セサルモ湯ノ動カサルヲ見テ段總理ハ各省代表召集說ヲ捨テントスル色アリト伝フ若シ段ニシテ国会召集旧約法復活ニ贊同セン乎残ス所僅カニ内閣改組帝制余

肇処分ノ二個条ニシテ内閣改組問題ハ差当リ段祺瑞ヲシテ南北連合内閣ヲ組織セシムレハ兎モ角段ヲ除外シタル内閣ハ到底段ノ承知スル処ニ非ラズ現内閣ヲシテ帝制派ヲ処罰セシメントスルモコレ亦実行ヲ期シ難シコレヲ以テ国会召集旧約法復活ノ同意ヲ得ハ南方側モ差当リ段ヲ中心トスル連合内閣ヲ作り以テ徐ロニ帝制派ヲ驅逐スルノ外目的ヲ到達スルノ方法ナカルベシ若シ連合内閣組織ノ協訂ヲ見スハ正ニ南方ハ此レ以上ノ保証ヲ得ザルベク中国ノ前途再ヒ一大混乱ノ状態ニ陥ルベシ云々

二四〇 六月二十七日 在漢口瀨川總領事ヨリ  
石井外務大臣宛(電報)

漢口ニ於ケル革命派特ニ田桐一派ノ動向ニ関  
シ報告ノ件

第二四三号

従来当地ニ在リシ民党ノ有力者ハ袁ノ死去後陸統北京ニ赴キ今尚ホ残留セルハ孫黃ノ系統ニ属スル田桐及白逾桓ノ一派アルノミナリ然ルニ支那官憲ト一派ノモノトハ毫モ融和セザルノミナラズ官憲側ニ於テハ一日モ早ク彼等ヲ此地方ヨリ追放セント苦心シ最近ニ至リテハ金錢ヲ以テ之ヲ買収

本信送付先 (北京)上海  
(上海)北京

二四二 七月四日 在漢口瀨川總領事ヨリ  
石井外務大臣宛(電報)

旧約法復活會議ノ召集内閣々員ノ交迭ニ孫黃  
派ハ満足セル件

第二四九号

当地ニ在ル孫黃兩派ノ革命黨員等ハ今回発表セラレタル旧約法ノ復活會議ノ召集内閣員ノ更迭ニ関シ南方側ノ目的ヲ達シタルモノト為シテ大ニ満足シ此上兵乱ヲ醸スノ意思ナキモノ、如ク而シテ右兩派ノ首領タル田桐白逾桓ハ湖北選出衆議院議員ナルヲ以テ本部ヨリ命令アリ次第部下ヲ解散シ上海經由北京ニ向フ考ナリト云フ尚ホ彼等ハ近時湖北省内各地ニ蜂起セル土匪中ニ革命党ノ名ヲ用ユルモノアルモ右ハ自分等トハ何等ノ關係ナシト称シ居レリ

二四三 七月四日 谷口福岡県知事ヨリ  
石井外務大臣宛

黃興等静岡丸ニテ上海へ直航ノ件

高秘第九三二一号 (大正五年七月七日接受)

三 中国革命派及其他ノ動靜ニ関スル件 二四二 二四三

シ強テ当地ヲ立去ラシムルノ方法ヲ講スルニ至レリ元來田桐一派黎元洪ニ對シテハ敵意ヲ挟ムモノニアラスト雖モ袁世凱時代ニ於テ多數ノ革命党ヲ殺戮シタル当地ノ王將軍ニ對シ復讐心アルヲ以テ此際王將軍ヲ初メ揚子江一帶ノ諸將軍ヲ排斥シ政治上ノ根本的改革ヲ実行セント期待シ居レリ尤モ今日ノ場合到底彼等ノ独力ヲ以テ此目的ヲ達スルコト困難ノ業ナレバ万一ニモ陸榮廷ガ此際湖南ヨリ当地ニ來ルコトアラバ目的ノ遂行上好都合ト信シ先日來孫文ヨリハ切リニ上海ニ歸來ヲ促カシタルニ拘ラス目下当地ニ滞在シ居ルモノナリト云フ

在支公使へ転電セリ

二四一 七月一日 石井外務大臣ヨリ  
在中国日置公使、在上海有吉總領事各宛

黃興ノ動靜ニ関シ通報ノ件

政機密合送第一〇三号

黃興帰国ノ件

黃興ハ引続キ当地ニ滞在中之処來七月四日門司出帆ノ静岡丸ニテ(北京)上海貴地へ向ケ出発スルコト、相成候間右様御承知相成度此段申進候也

大正五年七月四日

福岡県知事 谷口留五郎

外務大臣男爵 石井菊次郎殿

申(通)報先 (内相、外相、警視總監、神奈川、兵庫、山口、長崎県知事)

黃興一行帰国ニ関スル件

支那革命党首領

黃興

同參謀 文紹雲

同秘書官 林辰

右一行ハ昨三日午後八時廿四分下関駅着列車ニテ東京ヨリ來関同市山陽「ホテル」ニ少憩後門司碇泊ノ静岡丸ニ乗船シタル旨山口県ノ通報ニ依リ視察スルニ黃ハ「エムシリリ」文ハ「エッチ、エッチ、シオエン」林ハ「シビジアイエン」ト何レモ其船客名簿ニ変名シテ乗船シ居タルカ本日午前八時五十分東京ヨリ來関シタル黃興ノ部下李亦樞(別名文群)王甫宣(別名汪義甫)ノ兩名モ本船ニ同乗シ黃興ノ一行ト共ニ本日午前十一時門司出帆ノ同船ニテ上海ニ直航セリ本人等門司寄航中ハ絶エス其身辺ヲ警戒シ客室ノ扉ヲ密閉シテ外來者ノ訪問ヲ避ケツツアリシニ依リ本県ニ於テハ所属

三 中国革命派及其他ノ動靜ニ関スル件 二四四

署長ニ命シテ相当ノ保護ヲ与フルト共ニ一面一行ノ帰国ニ付テハ外間ニ漏ラシメサル様警戒ヲ加ヘタルニ依リ門司寄港中異状ヲ認メサリキ

右及申(通) 報候也

二四四 七月十一日 清野兵庫県知事ヨリ  
一本内務・石井外務大臣他各宛

中国革命黨員往来ニ関シ報告ノ件

兵発秘第一、〇三八号 (大正五年七月十四日接受)

大正五年七月十一日

兵庫県知事 清野 長太郎

内務大臣法学博士 一木喜徳郎殿

外務大臣男爵 爵 石井菊次郎殿

警視総監 西久保弘道殿

支那革命黨員ノ来往并ニ其ノ言動ニ関スル件

革命党ノ首領孫逸仙ノ股肱トシテ謀議ニ与レル東京革命党本部ノ武田健事王統一(当三十四年)ハ当地ニ於ケル姻戚ノ關係アルモノ、葬儀参列ノ為過般来妻子同伴ニテ来神山本通四丁目常盤舎ニ投宿中ノ処本月九日午後十時四十二分三宮駅発列車ニテ東上セリ(大阪府へハ即時電話ス)

以テ支那ニ同様ノ学校ヲ設立シ大々の青年ヲ教養シ根本の頭腦ヲ開発スヘキ考案ナリ云々

右及申(通) 報候也

二四五 七月十八日 在漢口瀨川總領事ヨリ  
石井外務大臣宛(電報)

田桐ニ派解散ニ関シ報告ノ件

第二六〇号

当地革命黨員解散ノコトニ関シテハ先日米鎮守使中央ニ立チテ斡旋ノ勞ヲ執リタル処田桐一派ノモノニ対シテハ將軍ヨリ解散費トシテ一万五千元ヲ支出シ且武器及彈藥等ヲモ一切買上ケタルニ依リ兼テ同派ノ為メ働キ居タル日本人等モ夫々關係ヲ断チ田桐ハ近々上海ニ赴ク筈ナル由尤モ白逾桓一派ノモノトハ未タ何等交渉ノ纏マリタル模様ナシ  
北京転電済ミ

二四六 七月二十日 在漢口瀨川總領事ヨリ  
石井外務大臣宛

田桐派ノ買収ニヨル革命党解散ニ関シ報告ノ件

政機密第八九号 (大正五年七月二十九日接受)

三 中国革命派及其他ノ動靜ニ関スル件 二四五 二四六

将来ニ於ケル日支關係ニ対スル同人ノ意見ナリト云フヲ探聞スルニ

一今日袁ノ惡政ヲ批難スルハ所謂死屍ニ鞭ツカ如キモノナレハ多ク語ルヲ好マス今や革命南軍ノ同志モ拳兵ノ目的タル袁ハ既ニ殲レ其ノ理想トセル黎總統ヲ迎エタレハ悉ク革命軍ノ目的ヲ達シタリト云ヒ得ヘシ然ルニ同志間ノ一部ニハ尚ホ武力ヲ以テ時局ヲ解決セント企図スルモノアルカ如シト雖モ开ハ蠻の行為ニシテ誤レルモ亦甚シキモノナレハ却テ民衆ノ反感ヲ招クニ至ラム

一由來吾々孫一派ハ故袁總統ト政見ヲ異ニシタル結果遂ニ日本ニ亡命スルノ已ムナキニ立至リタルモノナレハ今後第二ノ袁世凱出現セスシテ中華建國当初ノ目的ヲ持統スルニ於テハ亦何ヲカ云ハン孫ヲ始メ吾々ニ至ル迄毫モ獵官ノ野心ナシ久敷日本ニ寄寓シ日本ヲ第二ノ故郷ト慕ヒ同時ニ日本ノ真情ヲモ比較的克ク理解シ居レハ東洋ノ平和、日支親善ノ為最善ノ努力ヲ以テ曲解セル支那人ノ意思ヲ改メン考ヘナリ

此ノ意味ニ於テ教育ノ普及及産業ノ振興ハ第一急務ナルカ故ニ早稲田大学慶応義塾等ニツキ其ノ長短ヲ研究斟酌シ

大正五年七月二十日

在漢口

總領事 瀨川 浅之進(印)

外務大臣子爵 石井菊次郎殿

革命党首領買収ニ関シ報告ノ件

在漢口革命党首領田桐其他ノ買収ニ関シ王督軍ハ杜鎮守使ヲ通シ予テ民党側ト協議中ナリシハ既報ノ如クニシテ民党側代表季雨霖ハ杜鎮守使ニ対シ  
一既決未決政治犯全部ヲ放免スルコト  
二劉有才其他ノ組織スル探偵機關ヲ全廢スルコト  
三革命党機關紙ノ自由発売ヲ許スベキコト  
四各県ニ於ケル政治犯モ亦放免シ且探偵機關ヲ全廢スベキコト

五革命党所有ノ武器ヲ買収スルコト

六革命黨員解散費ヲ支給スルコト

等六ヶ条ノ条件ヲ提出シ其解散費ノ額ハ二十萬元トモ称シ或ハ三四萬元ナリトモ伝ヘ不明ナルモ其後兩者間ノ協議余程進捗セシモノノ如ク昨十九日午後七時田桐、白逾桓、唐儀支、吳醒漢、楊時傑、胡祖舜、張若柏等本人或ハ代理者

季雨霖ト共ニ鎮守使署へ集合會議シ杜鎮守使トノ間ニ双方折合ヲ見ルニ至レリ其金額ハ差当リ一万五千元ヲ王占元ヨリ提出スルニ決シ其殘額ハ未詳ナリト雖モ王占元ヨリ商務總會ニ調達方下命セルハ事実ナルガ如シ

元來這回ノ官革提携ハ軍人出身ノ黨員ハ此解散費分配ニ与カラザルモノ多ク為之此等人物ハ連日田桐其他ノ提携承諾者ニ対シ解散費分配ヲ強要シ然ラサレバ妥協ノ取消各黨員武器分配等ヲ迫リツ、アリテ田桐其他ハ近來軍人派黨員ノ面接スルヲ恐レ田桐ハ一兩日前私ニ從來ノ居所日本租界ヲ出デ、目下仏租界ニ潜居シ固ク其居ヲ秘シツ、アリ而シテ軍人派黨員ニ於テハ聶予向海潛等ノ一味尚ホ護國軍ト称シ田桐白逾桓等ノ罪狀ヲ並ヘ立テツ、尚現湖北官憲ニ対シ反對の行動ヲ取ラント計畫シツ、アリ上述ノ如ク一部首領ハ既ニ買収セラレタリト雖モ買収セラレタル首領ニシテ其ノ収受セル解散費ヲ適當ニ分配スルニ非ラザレバ不平分子ノ蠢動尙容易ニ止マザルベシト觀測セラル

右報告申進候 敬具

写送付先 在支公使

那ニ殘シ置クハ如何ニモ心許ナク思ヒ居ル模様ニテ周ノ家族ハ嘗テ米國ニ住ヒ勝手モ心得居ル旁已ムヲ得サレハ家族同伴渡米シテモ宜シト云ヒ居ルモ朱啓鈴ハ成ルベクナラバ家族ハ一先ツ日本ニ落チツケタシト云ヒタル由船津ハ周カ梁士詒ト共ニ大倉組河野トハ從來親密ニ往來シ居ルコトヲ承知シ居ルヲ以テ一応河野ト相談ノ上何トカ工夫スベシト答ヘタルニ周ハ是非其ノ通り取計ハレタシト懇望セルニ付船津ハ不取敢書面ニテ其旨在東京河野へ通シタル処大倉組本店ヨリ当地出張員へ宛周朱兩人日本ニ來ラハ万事引受ケ世話致スヘキ旨打電シ來リタル趣ナリ就テハ大倉組ニテハ其筋ニテ異議ナキ限り周等ノ用意出來次第天津同店々員附添ヒ本邦へ渡航致サセタキ積ナル由ニ付右ニ対スル政府御所存ノ程至急御回示ヲ請フ

二四八 七月二十六日 石井外務大臣ヨリ  
在中国小幡臨時代理公使宛(電報)

周自齊等ノ日本渡航ニ異存ナキ件

第二八〇号

貴電第六八五号ニ関シ周自齊等日本へ渡航ノ義ハ政府ニ於テ別ニ異存無シ但シ政府モ承知ナリトノコトヲ周等ニ申通

三 中国革命派及其他ノ動靜ニ関スル件 二四八 二四九 二五〇

二四七 七月二十五日 在中国小幡臨時代理公使ヨリ  
石井外務大臣宛(電報)

周自齊及朱啓鈴ハ日本ニ渡來ノ希望ヲ船津書記官ニ内話シタル件

第六八五号

船津書記官カ日置公使見送ノ為下津ノ砌七月十七日周自齊、朱啓鈴、葉恭綽ハ会谈旁同書記官ヲ午餐ニ招待シ(葉ハ間際ニ至リ不快ノ為出席セサリシ)其際周等ハ現下ノ時局ニ対シ極メテ悲觀的ノ觀察ヲ下シ甚タ好マヌコトナガラ遠カラス再ヒ混乱ノ状態ニ陥ルコトナキヤ憂フ何レニシテモ再ヒ自分等ノ活動ヲ要求スル時機來ルヤモ計リ難シ自分等ハ此ノ雌伏ノ時機ニ乗シ先ツ日本ニ赴キ家族ヲ安置シ一面日本ノ事情ヲモ研究觀察シ更ニ進ンテ欧米各国ヲモ歴遊シ他日活動ノ準備ヲ致シタキ希望ナリトテ船津ノ意見ヲ求メタルニ付船津ハ此際同人等日本ニ赴カバ新聞等ノ噂ニ上リ稍ヤ五月蠅カルヘキ懸念モアルニ依リ夫レハ至極面白キ想附キナルモ当分家族ハ現状ノ儘トシ兩君等單身相携ヘテ先ツ欧米ニ赴キ最後ニ日本ニ渡リ篤ト一般ノ觀察ヲ遂ケタランニハ一層妙ナラント答ヘタルモ彼等ハ此際家族ヲ支

スルコトハ望マシカラサルニ付大倉組ニ於テモ其ノ含ニテ万事可然措置スル様取計ハレ度シ  
本件往復電報為参考上海へ転電アリ度シ

二四九 七月三十一日 在漢口瀨川總領事ヨリ  
石井外務大臣宛(電報)

解散反對ノ革命党一派暴動化ノ件

第二七五号

未タ解散セサル革命党ノ一派ハ遂ニ暴党ト變シ三十日午後九時頃ヨリ日本租界外ノ西手ニ当ル民家ニ放火シ次テ独逸租界外ニ在ル支那警察ヲ焼払ヒ漸次南進シテ支那街ノ各処ニ放火シ焰々タル猛火ハ天ニ漲リ漢口市街非常ノ雜踏ヲ極メ居レリ但シ外国租界ハ無事

北京へ転電セリ

二五〇 七月三十一日 在漢口瀨川總領事ヨリ  
石井外務大臣宛(電報)

革命派殘党ノ中国市街ニ於ケル暴動狀況報告

ノ件

第二七六号

革命殘党歐丹書、向海儋、聶予ノ部下ニ属スル黨員約五百

名ハ三十日午後九時頃日本租界ノ西方鉄路線外ニ在ル支那部落ニケル放火シタルモ驟雨ノ為メ忽チ鎮火シ次テ独逸租界ニ沿ヘル支那市街数ヶ処ニ放火シテ警察署ノ武器ヲ奪ヒテ民家ヲ掠奪シ更ニ進ンテ仏租界ヲ通過セントスル際安南兵ニ阻止セラレテ租界外ニ出テタル処ヲ鎮守使ノ兵ニ要撃セラレテ鉄路線外ニ逃逸シ次テ漢陽方面ニ於テモ放火掠奪ヲ行ヒタルカ天明ヲ俟チ何レヘカ逃走セリ我カ派遣隊ヨリハ日本租界警備ノ為メ出兵シ又仏国領事ヨリモ日本軍隊ノ応援ヲ求メ来リタルニ依リ一個中隊ヲ急派セリ、右革命殘党ハ予テ日本租界並ニ仏国租界内ニ居住セシモノナリト雖モ兩租界ニ於テ数日前彼等ニ退去ヲ命シ而シテ今回事ヲ挙クルニ際シテハ湖北護国軍ノ名義ヲ用ヒ其目的ハ現政府ノ兇党ヲ掃蕩スルニアリト標榜セリト雖モ昨夜ニ於ケル彼等ノ行動ヲ見ルニ強盜掠奪ノ外何等為スナキモノ、如シ蓋シ彼等ハ復ヒ当地ニ帰来スルコト能ハサルヘク今後土匪ト和シテ附近各地方ニ出沒スルニ至ルヘシト、

前記支那市街ノ火災ハ三十日午後十時ヨリ三十一日午前二時頃迄繼續シ焼失家屋ハ数千戸ニ上レリ若シ同夜驟雨ナカリシナラハ其損害ハ一層大ナルモアリシナラン日本人ノ

ヲ焼キ財物ヲ掠奪シ翌三十一日午前三時漸匪勢解散鎮火ヲ見ルニ至ル一太棒事ヲ惹起セリ

暴動ノ原因 ハ一言以テ之ヲ云ヘハ革命殘党ニ於テ生活資料ヲ得ント欲シ掠奪ヲ敢行シタルニ在リ抑モ当地革命黨重要人物田桐外九十名ハ既ニ解散費ヲ支給セラレ湖北官憲ノ手ニ懷柔セラレタルニ拘ラス元一部ノ軍人派ニ屬セシ呂丹書聶予向海潛等ノ首領即チ此次懷柔漏レノ分ハ未タ解散資金ヲ得ス財政上ノ窘迫ニ伴レ黨員維持困難ヲ来シ軍餉籌達ノ美名ヲ冠リ私カニ匪徒的行動ニ出テツ、アリシハ前信既報ノ通りニシテ此等殘党ノ行為ハ今ヤ全然政治的何等ノ意味ヲモ有セス而カモ支那時局ノ大勢推移シタル今日ノ狀勢ニ照ラシ当館ニ於テハ此等革命黨ノ取締リ勵行ノ必要ヲ認メツ、アリシ矢先本月二十八日ニ至リ本租界居住殘党首領呂丹書ハ數通ノ書面ヲ当館ニ提出シ其封面既ニ湖北護国軍總司令部ノ印ヲ堂々押捺シ内容或ハ党ノ政見ノ如キモノヲ認メ或ハ軍餉籌達ノ方法等ノ如キモノヲ公然通告シ来リシヲ以テ從來ノ彼ノ言ニ反シ其總機關部ヲ当租界内ニ開設シ居ルコト明瞭トナリシニ因リ直チニ呂丹書ヲ当館警察署ニ召喚シ一面黨員ノ所在並ニ其數ヲ調査報告セシムルト共ニ

損害ハ洗濯屋一戸洋服店一戸倉庫一棟焼失シ其他藥店ノ掠奪ニ遇ヒシモノ一戸ナリ  
北京、九江、沙市、長沙ニ転電セリ

二五一 八月一日 在漢口瀨川總領事ヨリ  
石井外務大臣宛

漢口暴動詳報送付ノ件

附屬書 漢口暴動詳報

政機密第九六号 (大正五年八月九日接受)

大正五年八月一日

在漢口

總領事 瀨川 浅之進(印)

外務大臣子爵 石井菊次郎殿

漢口暴動詳報ノ件

本件ニ関シ別紙報告書及呈出候間御査閱相成度候 敬具

本信写送付先 小幡在支那臨時代理公使

(附屬書)

漢口暴動詳報

七月三十日午後九時漢口日本租界後方京漢線路外ニ一群ノ暴徒集合シ烽火ヲ起シ西南進シテ独逸租界後方ニ到リ民屋

此等殘党全員即チ二百六十四名ヲ五日間以内ニ租界ヨリ退去スベキコトヲ諭示命令シタリ恰モ同日仏租界ニ於テモ亦革命殘党約三十名ヲ逮捕シ土匪ノ名目ノ下ニ之ヲ支那官憲ニ引渡シタルノ事實アリテ革命殘党側ニ於テハ今ヤ彼等ノ身ノ寄セ所ナキ窮地ニ陥レリ茲ニ於テ(一)彼等ハ已ムナク漢陽武昌ヲ攻撃シ掉尾ノ勇ヲ示スベシ(二)彼等ハ租界退去命令ノ鬱憤ヲ晴サンガ為メ日仏租界ニ放火スベシナドノ謠言何処トモナク二十九、三十兩日ニ亘リ伝播シ三十日夜日本租界附近支那街ノ警備全然皆無トナリシニ乘シ遂ニ解散ノ途上一掠奪ヲ開始スルニ至リシモノナリ

謠言ト人心 斯ノ如キ謠言ハ逸早く各方面ニ伝播シ人心恟々トシテ租界ヨリ支那町ニ支那町ヨリ租界ニ避難移住スルモノ荷物ヲ肩ニシテ右走左往シ加之暑夜消遣ノ為メ租界江岸ヲ彷徨スル人出極メテ多ク市場ノ雜鬧名狀ス可ラズ且ツ日本租界後方支那町三元里付近警備ノ巡警ハ三十日午後六七時頃ニ至リ既ニ逃亡シテ全然無警察ノ状態ニ在リキ而シテ呂丹書ハ当夜黨員ニ解散費トシテ二元乃至三元ノ旅費及黨員タリシコトヲ記載セシ護照様ノモノヲ發給シ解散事務ヲ急キツ、アリテ毛頭上記謠言ノ如キ計畫ナキヲ声明シ居

リシニ拘ラズ旅費ヲ得タル黨員ハ三々五々三元里方面ニ向ケ租界ヲ立チ去リ三元里ノ無警察ナルヲ見テ同地ヲ去ル約一丁京漢線ヲ越ヘタル地点ニ放火シ勢ヲ得テ日本租界後方三元里西南方支那町ニ於ケル一菜市场ニ集合シ從來私カニ携ヘ居タル「ピストル」及同所付近ニ私藏セシ騎銃ヲ取り出シ腕ニ白布ヲ付ケ此ニ黨員外ノ弥次馬ヲ加ヘ總勢約五百此中武器即チ「ピストル」騎銃爆彈等ヲ有スルモノ約四五十名アリ茲ニ暴徒ノ一団編成セラル、ニ至レリ

放火掠奪ノ状況 菜市场ニ嘯聚シタル暴徒ノ一団ハ続テ京漢線外(日本租界後方)ノ鎮守使兵分駐所ニ押シ寄セ同所ニハ約一小隊ノ兵アリシニモ拘ラス既ニ逃亡シ暴徒ハ幾分ノ武器ヲモ獲テ之ニ放火シ愈々氣勢熾ナラントスルニ當リ俄然驟雨一來容易ニ鎮火シタリト雖モ其付近ヲ掠奪シタル一団ハ騎虎ノ勢ヲ以テ更ニ独逸租界ト支那町トノ交界街路ヲ進ンテ西南進セント試ミ独逸租界義勇兵並巡警ニ阻止セラレ此時既ニ彼此銃彈ノ交換アリテ殷々タル銃声各方面ニ起ル阻止セラレタル暴徒ノ一部ハ京漢線ニ沿フテ独逸租界後方華景街ニ出デ十時半頃第八警察署ヲ襲撃シ此レヨリ手當リ次第放火掠奪ヲ開始シタルニ第八署巡警及同地鎮守使

兵既ニ逃亡シ暴徒ハ単ニ独逸租界ノ守備軍ト交戦シツ、仏租界後方迄ニ至ル支那町ヲ自由ニ放火掠奪シ尽シ仏租界後方ニ至リテ安南巡捕及英國義勇隊ノ少数並ニ鎮守使參謀ノ引率セル支那官軍ノ為メニ喰ヒ止メラレテ三十一日午前三時遂ニ四散スルニ至レリ此次暴動ニヨル罹災家屋ハ約二千余ニシテ死傷者數未詳ナリト雖モ翌朝路上ニ斃死セシモノ三屍アリ又一独逸婦人流彈ノ為メ死セリト伝ヘラル而シテ暴徒ハ放火掠奪ト共ニ從前用意シタル佈告ヲ邱某ノ名ニ於テ二三方面ニ貼布セルモノアリ(別紙參照)

租界ノ防備 暴徒起事ノ謠言起ルト共ニ独逸租界ハ同夜八時頃義勇隊ヲ召集シ且ツ巡警ニ武裝セシメ租界後方支那町隣接地点ノ防禦ニカメ仏租界亦安南巡捕ヲ召集シ英租界ハ十時頃ニ義勇兵ヲ召集シ之ヲ仏租界ニ送り防禦セシメタリ而シテ當日日本租界ニ於テモ亦九時頃派遣隊ノ出動守備ヲ見ルニ至レリ午後十一時半ニ至リ仏領事ヨリ日本軍ノ來防ヲ要請シ來レルニ因リ日本派遣隊ハ約七十名ノ兵ヲ中隊長指揮ノ下ニ仏租界ニ出動セリ翌三十一日ニ於ケル各租界防禦狀況ハ殆ント第一次革命當時ニ均シキモノノ如ク独仏兩租界ハ支那町隣接地点要所ニ於テ土囊ヲ堆積シテ防備シ且ツ

支那軍隊モ亦前方支那町ニ配置セラル、ニ至レリ

(別紙)

湖北護国軍總司令 邱 佈告

|        |        |
|--------|--------|
| 民国成立五載 | 內憂外侮紛爭 |
| 危亡禍迫眉睫 | 亟應力謀振興 |
| 五族和衷共濟 | 猶慮難禦強隣 |
| 袁賊計不出此 | 乃反包藏禍心 |
| 自賊履任總統 | 日唯饕殮放橫 |
| 肆威解散国会 | 外交独斷独行 |
| 苛稅斂及秋毫 | 脂膏剖尽蒼生 |
| 同胞怒目切齒 | 早已怨懟填膺 |
| 賊尚不知悛悔 | 又復称帝自尊 |
| 強自製造民意 | 且更違棄前盟 |
| 滇黔首先声討 | 兩廣繼起義軍 |
| 浙蜀先後獨立 | 湘魯亦表同情 |
| 山陝控制西北 | 勢將直搗燕京 |
| 袁賊從茲胆怯 | 忽爾帝慾漸泯 |
| 意圖霸占總統 | 再行誤國殃民 |
| 如此反覆叛徒 | 豈可仍秉國鈞 |

今幸天討有罪 袁賊忽化遊魂

乃賊羽翼方張 豈可停止進行

要知殃民誤國 罪惡不僅一人

今乃要挾黎公 意欲号召將軍

私造就職偽令 藉以淆亂聽聞

此皆逆党奸謀 黎公並未与聞

敬告父老子弟 万勿為其混朦

本軍與師討賊 志在救國救民

力圖根本解決 誓必尽掃妖氛

我軍擁護民權 不容党派紛爭

但属討逆同志 自当一体歡迎

内地外人教堂 更須特別相親

保護生命財產 不容毫有佔侵

我軍軍律嚴整 拳動出自文明

其有藉端擾亂 抑或擄掠姦淫

一經指名控告 定按軍法嚴懲

四民各安生業 毋庸涉避相驚

如此特頒佈告 抑我軍民凜導

中華民國五年七月三十一日

二五二 八月二日 在中國小幡臨時代理公使ヨリ  
石井外務大臣宛(電報)

周自齊等渡日ニ関シ報告ノ件

第七〇四号

往電第六八五号ニ関シ其後当地大倉組店員天津ニ赴キ周等ニ面会ノ上本店ノ意向ヲ伝ヘタル処周ノ妻目下病氣ニテ急ニ出発六ヶ敷ク且朱啓鈴ハ其後英國筋トモ相談シタル為ニヤ一度威海衛ニ行キ二三週間滞在ノ後更ニ日本行ヲ実行スルコトニ致シタシト云ヒ周モ妻ノ病氣ニ故障ナキ限一応威海衛ヘ同行スルヤモ計リ難シト申居リタル由ナリ右御参考迄

二五三 八月三日 石井外務大臣ヨリ  
在シカゴ來栖領事宛(電報)

漢口ノ革命派殘党ノ暴動ノ真相ニ付通報ノ件

第二号

漢口暴動ニ関スル貴地「デーリー、ニュース」北京通信ハ事實全ク相違シ居リ其真相ハ曩ニ日本租界及仏国租界ヨリ退去ヲ命セラレタル支那革命党ノ殘類約五百名ガ七月卅日午後九時頃日本及独逸租界附近ノ支那街ニ放火シ警察署ノ

武器ヲ奪ヒ掠奪ヲ為シタルモノニシテ日本ノ幫助等之無キハ云フ迄モ無ク我カ派遣隊ヨリハ日本租界警備ノ為メ出兵スルト同時ニ仏国領事ノ依頼ニヨリ一中隊ヲ同国租界ニ急派シタル程ニテ日本人ノ損害焼失三戸掠奪一戸アリタリ尚ホ暴徒ハ卅一日未明何レヘカ逃走シ暴動全ク鎮靜ニ帰シタリ

貴電第八号本電ト共ニ為參考在米代理大使在紐育及桑港總領事代理ニ転電アリタシ

二五四 八月八日 石井外務大臣ヨリ  
在シカゴ來栖領事宛(電報)

漢口暴動ニ関シ同地總領事ノ報告通報ノ件

第三号

往電第二号ニ関シ在漢口總領事ヨリノ報告ニ依レハ八月三日同地交渉員ハ鎮守使ノ報告ニ基キ日本租界内ニ匪徒三百人潜伏シ居ル由ニ付引渡サレ度旨同總領事ニ請求シ来リシヲ以テ日本租界内ニハ現在匪徒ト目スベキモノアラザルモ若シ治安ヲ妨害スルノ惧アリト認ムル者來往スルニ於テハ相当処分スベキ旨回答シ置キタル由ナリ尚同總領事ノ報告ニ依レハ同地ノ支那官憲中ニハ今回ノ暴動ニ対スル自己ノ

報ノ件

(別紙)

北機密第六一号

大正五年八月八日

在漢口

總領事 瀨川 浅之進

臨時代理公使 小幡 酉吉殿

漢口暴動事件ニ関シ坂西大佐發參謀本部宛電

報ノ件

二五五 八月八日 在漢口瀨川總領事ヨリ  
石井外務大臣宛

漢口暴動事件ニ関シ坂西大佐發參謀本部宛電

報寫送付ノ件

政機密第一〇〇号 (大正五年八月十六日接受)

大正五年八月八日

在漢口

總領事 瀨川 浅之進(印)

外務大臣子爵 石井菊次郎殿

件名

漢口暴動事件ニ関シ坂西大佐發參謀本部宛電

三 中國革命派及其他ノ動靜ニ関スル件 二五五

本件ニ関シ往電第二四三号ヲ以テ取調方及電請置候処近頃病氣ノ為メ自宅ニ引籠中ノ武昌寺西大佐ヲ八月五日訪問シタル督軍公署參謀長何佩瑢ハ寺西大佐ガ漢口暴動事件ハ日本人ノ使噉ニヨリ發生シ且ツ其中ニ多数日本人加担シ居ル由王督軍其他ヨリ北京政府ニ報告シタル由ナルモ右ハ其実況ヲ誤レル報告ニ非ズヤト質問シタルニ対シ「暴動事件以前ヨリ日本總領事ノ執ラレシ諸般ノ処置極メテ公平ニシテ且ツ王督軍ニ対シ多大ノ同情ヲ有シ居ラル、ハ督軍ノ深ク感謝シツ、アル所ナリ暴動ノ原因ニ就テ貴国ヲ中傷シタルガ如キ報告ヲ北京ニ為シタル事實ナク又為スベキ筈ナシ現

ニ尚ホ若干ノ革命黨員ハ或ハ各国租界ニ潜伏シ居ルヤモ知  
ル可ラズト雖モ日本租界ニノミ多数暴動者ノ潜伏シ居タル  
モノナリトハ何人モ信ジ得ベカラザルコトニシテ此点ニ於  
テモ王督軍ハ此ノ如キ愚報ヲ為ス筈ナク又暴動者中ニハ華  
景街後方ヨリ多数ノ苦力車夫輩モ参加シタルモノナルベシ  
日本租界ヨリ暴動ノ主動者出テ来レルモノナリト云ヘルハ  
或ハ杜鎮守使ヨリ此ノ如キ意味ノ報告ヲ北京ニ提出シタル  
ヤモ計ラレズト雖モ兎モ角這回暴動ヲシテ斯ノ如ク大ナラ  
シメタルハ支那軍警ノ配置並ニ動作良シカラザリシニ因ル  
ベク一省ノ長官タル王將軍ニ於テ其實ヲ負フハ勿論ノ事ニ  
シテ之ヲ敢テ他ニ転嫁セントスルガ如キ卑劣ナル精神ハ毛  
頭ナシ尚ホ此ノ如キ報告ヲ發セシ事實ナキヲ証スル為メ王  
督軍發北京政府宛報告原稿ヲ提示スルモ苦シカラス云々」  
ト答ヘタル由ニテ此ノ談話ニ照ラストキハ坂西大佐電報中  
ノ王督軍ノ報告云々ハ或ハ杜鎮守使報告ノ誤ナラズヤト察  
セラル、節モ有之候右何等御參考迄報告申進候 敬具

(写送附先 外務大臣)

二五六 八月十日 在漢口瀨川總領事ヨリ  
石井外務大臣宛(電報)

領事館事務代理 瀨 上 恕 治

外務大臣子爵 石井菊次郎殿

孫逸仙来杭ニ関シ報告ノ件

本件ニ関シテハ曩ニ八月十七日發第五〇号拙電ヲ以テ不取  
敢及御報告置候処同行ハ胡漢民馮自由鄧永彦周佩箴戴天  
仇但懋祿朱卓文等七名ニシテ八月十六日特別急行車ニテ杭州  
停車場着呂督軍代理周參謀長以下各庁々長師旅團長並ニ各  
団体代表者等ノ盛大ナル出迎ヲ受ケ周參謀長ノ先導ニテ轎  
輿ニ乗シ其旅館ニ充テラレタル西湖畔清泰第二旅館ニ投宿  
致候今回ノ来杭ハ差当リ格別ノ要務トテハアラザルベキモ  
呂督軍以下独立宣布後ニ於ケル各代表的官紳ト親シク面晤  
交談將來ニ対シ必要ナル聯絡ヲ結バンガ為ナルベク候現ニ  
孫以下一行ハ着杭後勉メテ各界代表者トノ来往ヲナシ各団  
体主催ノ歡迎会等ニモ努メテ出席シ孫ハ其都度進ンデ演說  
ヲナシ同時ニ当地重要人物ニ就キ各種意見ノ聴取ヲナスニ  
留意致タルヤニ有之候然シテ今回ハ大正元年八月来杭当時  
猶ホ身辺ノ警戒ニ細心ノ注意ヲ払ヒタルニ反シ極メテ自由  
ノ行動ヲ取り歡迎会出席ノ余暇ハ一行及ビ呂督軍派遣ノ接  
待員ト共ニ名勝古蹟ノ遊覽ニ努メ或日ノ如キハ湖畔小料理

三 中国革命派及其他ノ動靜ニ関スル件 二五八

漢口暴動軍ノ動靜ニ関シ報告ノ件

第二八三号

七月三十日ノ暴動以来支那側ハ云フニ及ハス各国租界中ニ  
於テモ仏独ノ二租界ハ今尚警戒ヲ嚴ニシ要所ニハ武装セル  
巡警ヲ配置シ謠言尚熾マスト雖其当時事ヲ拳ケシ湖北護國  
軍ノ總司令呂丹書ハ既ニ湖南ニ逃走シ逸子モ亦七日上海ニ  
赴キ自余ノ黨員ハ各所ニ散乱シ目下之ヲ統一スヘキ機關ナ  
キヲ以テ最近再ヒ当地ニ於テ事ヲ起スカ如キ事ナカルヘシ  
ト信ス尚該暴動當時ハ支那人及ヒ外國人中我租界内ニ於ケ  
ル革命党ノ取締方ニ関シ彼是レ批評ヲ加フルモノアリシモ  
昨今ハ漸ク当方ノ態度ヲ了解シ漫リニ論議スルモノナキニ  
至レリ

北京電報濟ミ

二五七 八月二十一日 在杭州瀨上事務代理ヨリ  
石井外務大臣宛

杭州ニ於ケル孫文ノ動靜報告ノ件

公第二七号 (大正五年八月三十日接受)

大正五年八月二十一日

在杭州

店ニテ晚餐ヲナシ西湖ノ風光ニ憧ガレ深更ニ及ビ漸ク旅館  
ニ歸リタル事サヘアルノ有様ニ有之候紹興府ニ於ケル有志  
者ノ招待ニ応ジ八月十九日一行ト共ニ同地ニ赴キ滞在一日  
直チニ甯波ニ至リ同地ニテ伍廷芳唐紹儀黃興等ト落合ヒ普  
陀山ニ遊ビ共ニ歸滬ノ予定ナルヤニ有之候当地歡迎会席上  
ニ於ケル演說ノ訳書相添此段御報告申進候 敬具

追テ孫逸仙ニ対シ当地重ナル官商ハ民国建設ノ偉大ナル  
勲功者トシテ其欸待ニ意ヲ用ヒ從テ各種歡迎会ハ何レモ  
極メテ盛大ニシテ其演說ニ対シテハ頗ル興味ヲ以テ聴取  
致タル模様ニ候モ大正元年ニ於ケル来杭當時ニ比スレバ  
一般官民ノ感情ハ稍々冷淡ナリシヤニ有之其演說ニ対シ  
テハ余リニ理想的ニシテ目下民国官民ノ急務トシテハ今  
少シ適切ニシテ直チニ実行シ得ベキ良策ニ就キ講究ノ要  
アルベシナドノ批評ヲナスモノ尠ナカラザルヤニ有之單  
ニ其演說ノミヲ以テ比較セバ寧口康有為ノナセル方反テ  
一般ノ注意ヲ引キタルヤニ及聞候

二五八 九月五日 在上海青木陸軍中將ヨリ  
田中參謀次長宛(電報)

蔡鐸渡日ノ件

第二二〇号

蔡鐸ハ九日伏見丸ニテ当地發福岡大学病院ニ入院ノ筈右準備ノ為メ蔣方震ハ七日春日丸ニテ先発ス

二五九 九月十日

在上海有吉總領事ヨリ  
石井外務大臣宛(電報)

蔡鐸出發ノ件

第二七八号

今朝發伏見丸ニテ蔡鐸渡日セリ

二六〇 九月十八日

清野兵庫県知事ヨリ  
小池政務局長宛(電報)

周自齊神戸到着報告ノ件

周自齊ノ一行ハ昨夕無事上陸東亞「ホテル」ニ泊ノ上今朝七時四十七分三ノ宮駅發汽車ニテ大倉ト共ニ東上セリ

二六一 九月二十一日

在上海有吉總領事ヨリ  
石井外務大臣宛(電報)

孫文黃興ハ雲南行ノ模様ナキ旨報告ノ件

第二八八号

貴電第一一三号ニ関シ孫逸仙黃興ハ何レモ当地仏租界ノ互ニ遠カラサル所ニ夫々住宅ヲ構ヘ黃興ハ最近同租界ニ新ニ

陳者先般來御配慮ヲ蒙リ候周自齊氏目下逗子ニ居住致居候  
処横浜在住支那人間ニ於テハ同氏ニ対シテ不穩ノ企圖有之  
モノト相見エ昨廿六日發行ノ東京夕刊新聞ニハ別紙ノ如キ  
記事有之候支那人ノ事故格別ノ事可無之トハ奉存候ヘ共或  
ハ万一ニモト存ジ私ニ憂慮罷在候其筋ニ於カセラレテモ夫  
々御注意被下候事トハ拝察致候ヘ共此上トモ必分ノ御保護  
被下候ハバ同氏ニ於テモ安心静養相出來候事ト存候ニ付何  
分ノ御配慮御願申上候実ハ拜趨可願上ノ処目下病中故乍失  
礼以書面奉願上候儀不惡御了承被下度候

敬具

(欄外註記)

内務省ヘ事実取調方申入済同省ニ於テモ已ニ相当保護ヲ  
加ヘ居ル由(小村印)

(別紙)

九月二十六日東京夕刊新聞所載

正義ノ刃ヲ加ヘン

周自齊危シ

帝制派亡命ノ卒先者前農商務總長周自齊氏ハ今尚鎌倉ノ大  
倉喜七郎氏別邸ニ十一名ノ家族ト共ニ滞在中ナルガ一般在  
留支那人ハ周ガ帝制運動開始以來彼ハ名ヲ帝制ニ藉ツテ支

三 中国革命派及其他ノ動靜ニ関スル件 二六三 二六四

二ヶ年ノ契約ニテ他ノ家ヲ賃借シ不日移転ノ筈ニテ今朝モ  
現ニ親シク面会シタルモ雲南行等ノコトハ毫モ耳ニセス同  
人ハ主トシテ湖南地方ノ問題ニ執掌シ與亞公司借款等ニ付  
テモ往電第二八五号ノ如ク各方面ヨリ電報等ノ依頼ヲ受ケ  
其他同省ノ問題ニハ大小トナク熱心ニ奔走シツ、アル模様  
ナリ孫文ハ客月浙江旅行以來腸胃ヲ病ミ暫ク引籠リ居リタ  
ルモ最早全快ノ様子ニテ最近潮見ノ為更ニ杭州ニ赴キ既ニ  
帰滬セルモ尚常態ニ復セス多少注意中ニテ彼ハ將來主トシ  
テ第二次革命前ノ如ク鉄道計画ニ執掌シタキ希望ヲ洩ラシ  
暫ク当地ニ落ツキ居ル様子ニテ雲南行等ノ模様ナシ委細ハ  
本月十六日附機密第七一号ニテ御承知ヲ請フ

二六二 九月二十七日

大倉組大倉喜七郎ヨリ  
小村政務局第一課長宛

滞日中ノ周自齊保護ニ付配慮方依頼ノ件

大正五年九月二十七日

大倉組 大倉喜七郎(印)

政務局第一課長

侯爵 小村欣一殿

拝啓

那ヲ售ラントスルモノナリトナシ常ニ惡感ヲ懷キ就中事毎  
ニ激シ易キ横浜南京街ノ支那人ハ漸ク過激ノ言動ニ出デン  
トセル矢先キ突然鎌倉ニ亡命シ來レルコトトテ横浜側ノ支  
那人ハ大ニ憤慨シテ中ニハ此際鎌倉ヨリ他ニ転住スルガ如  
キコトアラバ吾等ノ正義ノ刃ハ直ニ彼等カ肺腑ヲ刺スヘシ  
トテ此程数名ノ決死の刺客ヲ選ミタル由ニテ之レガ為メ我  
官憲ニテハ万一ヲ慮リ特ニ数名ノ護衛ヲ附シ一方此等不穩  
ノ形勢アル横浜在住支那人ニ対シテハ夫々視察ヲ警戒シツ  
ツアリ

二六三 十月三十一日

在上海有吉總領事ヨリ  
寺内兼任外務大臣宛(電報)

黃興十月三十一日死去ノ件

第二九九号

黃興過日来胃潰瘍ニ悩ミ居タル処今早朝遂ニ死亡セリ  
在支公使ヘ電報セリ

二六四 十一月四日

在中国林公使ヨリ  
寺内兼任外務大臣宛

黃興追悼ノ大總統令公布ノ件

公第二四九号

(大正五年十一月十日接受)

二〇九

大正五年十一月四日

在支那

特命全權公使男爵 林 權 助(印)

外務大臣伯爵 寺内正毅殿

十一月二日附大總統令ヲ以テ勲一位陸軍上將黃興ノ逝去ヲ追悼シ王芝祥ヲ特派シテ祭ヲ致サシメ且ツ治喪費トシテ二万円ヲ給シ喪殯ノ事宜ハ齊江蘇省長ヲシテ照料セシメ並ニ國務院ヲシテ十分優遇議卹セシムヘキ旨發表セラレ候右及報告候也

二六五 十一月十日 在中国林公使ヨリ  
寺内兼任外務大臣宛(電報)

蔡鐸死去ニ付本邦ニ於テモ可然配慮方稟申ノ

件

第九八三号

蔡鐸ノ死去ニ付テハ当地方官民ノ同情黃興ノ死ニ対スルヨリモ一層強キヤニ見受ケラレ南方ニ於テハ更ニ深甚ナルモノアルヘシト察セラル、処同人ハ四川督軍現官ノ儘客死シタルコトニモアリ此際死後ノ跡始末等ニ関シ本邦官民ニ於テモ成ルヘク便宜ヲ取計フコト、セハ当国一般人民ニ著シ

ハ別ニ人ヲ派シテ祭ヲ致サシメ其卹典ハ國務院ニ於テ優議スベキ旨ヲ公布セリ

將又黃興逝去ニ引続キ蔡鐸ノ逝去アリ故旧政客間ニ於テハ國葬ノ議アリ前日兩議院ヨリ劉景烈王正廷馬君武吳諫ノ四人ヲ委員ニ推挙シテ十一日午前中ニ國葬條例ヲ起草シテ議會ニ提出スベク又國務會議ニ於テモ議決スル処アリ法制局ヲシテ國葬條例ヲ起草セシムト伝ヘラル何レ此條例通過過布ノ上ハ黃蔡兩人ハ國葬ニ付セラルベキカト推測セラル右及報告候也

二六七 十二月十六日 警視庁ヨリ  
外務省宛

渡日後ノ張繼ノ動靜報告ノ件

乙秘第一、三八二号 十二月十六日

張繼ノ動靜

一、本日午前九時山本安夫ト共ニ人力車ニテ東京「ホテル」ヲ出デ外務省ニ至リ外務次官及ビ政務局長ト対談同十一時四十分帰宿

キ好感ヲ与ヘ自然兩國国交上ニモ好影響ヲ及ホスコトナルヘシト思考セラル、ニ付右ニ関シ至急然ルヘク御配慮適當ノ御措置相成ルニ於テハ至極好都合ナランカト存ス

(奉天発 十一月十日後六、五〇)

二六六 十一月十一日 在中国林公使ヨリ  
寺内兼任外務大臣宛

蔡鐸哀悼ノ大總統令公布ノ件

公第二五五号 (大正五年十一月十七日接受)

大正五年十一月十一日

在支那

特命全權公使男爵 林 權 助(印)

外務大臣伯爵 寺内正毅殿

黃興ノ逝去ニ引続キ蔡鐸カ福岡ニテ逝去ノ電報達スルヤ九日ノ衆參兩議院ハ哀悼ノ意ヲ表スル為メ特ニ休会シ北京全部ノ漢字新聞ハ一併ニ蔡鐸ノ功勞事蹟ト哀悼ノ論文ヲ掲ケ感動ノ情寧ロ黃興ニ対スルヨリ深甚ナルモノアルヤニ見受ケラル十一月十日附ヲ以テ特ニ大總統令ヲ發シ其溢逝ヲ悼ミ身後一切ノ事宜ハ駐日本公使章宗祥ヲシテ專員ヲ派シ照料セシメ治喪費トシテ不取敢銀二万円ヲ給シ靈柩帰國ノ日

一、正午单独參謀本部ニ至リ約一時間ニシテ退出午後一時廿分帰宿

一、午後二時单独人力車ニテ外出日本橋区白木屋呉服店ニ至リ買物ヲ為シ同三時卅分帰宿

一、午後四時頃宮崎虎藏(滔天)ノ長男某(法科大学生)来訪会谈ノ後同五時退出セリ

一、以上ノ外著シキ行動ナシ

二六八 十二月二十八日 李家長崎県知事ヨリ  
一木内務大臣宛(電報)

張繼上海ニ向ケ出発報告ノ件

(大正五年十二月二十九日接受)

内務大臣 長崎県知事

十二月二十八日午後〇時四十五分發

支那人張繼ハ本日前十時鹿島丸ニテ劉信ト変名シ上海ニ向ヘリ当地ニテハ面会ヲ避ケ何事モ語ラス